

- 北スペイン・ポルトガルの旅に行ってきました。…ポルトガルのコインブラ大学では、その学校の卒業生がガイドをしてくださいましたが、大学の授業料は1000ユーロから800ユーロ/年に下がったと言っていました。…スペインは高くなっているとガイドさんは言っていました。
- 表紙裏の毎日新聞記事を読ませていただきましたが、情勢にかみ合った重要な論点が、短い文章の中で分かりやすく網羅されていて感心しました。
- 自分自身が追求できずにきたいいわゆる「外的事項」が「内的事項」における不平等にどう浸透しているのか、改めて学んでみたいと思っています。
- タイトルに上げられたキーワードはすべて、途上国開発の分野でも共通して重要コンセプトとなっております。その点で興味をひかれます。
- なかなか魅力的なタイトルですね。また、学説の変化・発展を学べるとともに、最新情報を提供している素晴らしい内容のものだと思います。…細かい点を、1点だけお伝えすると、「社会科免許」(p.55)とありますが、これは、「社会の免許状」ともすべきではないでしょうか。教育職員免許法では、「社会」の免許状は規定されていますが、「社会科」は、ありませんから。
- とてもわかり易く書かれていて、この問題に関心を持つ人々の必読書に推奨されるべきだと思います。
- 17世紀にコメニウスは、初等教育の機会均等を提唱しましたが、ようやく高等教育についても展望できるようになりました。これからも注目していきたいと思います。
- ポスターに“未来への投資”と大きく書かれているのを度々見ながら苦々しく思っているところです。「無償」概念の拡張、「人材育成」への収れんなどと異なる、「教育への権利」としての教育無償化のために、時宜にかなない有意義な出版だと思います。広く読まれることを願わずにはおられません。
- 神戸大時代のまとめとして、いい本ですね。退官記念パーティーで、配布するのですか？
- 田中昌人さんが遺された課題の再確認から説き起こし、改憲の動きや政治の過程に潜む陥穽に注意しながら「合意形成」をどのように構想するかという観点を提起された点など、論議の行く末を考えると、きわめて意義深いものと思われまます。
- 教育無償化を進めるには改憲を前提にしなくてもよいことは、本書からもよく理解できます。多くの方が、本書を読んでもくれることを願います。
- 一番感銘を受けたのが、「個々人の全面的に開かれた自由な発達」という考え方です。最近、教育の無償化について、様々な方面で話題となってある意味盛り上がっていますね。…無償化には様々な側面があるため、何のための無償化なのか、を明確にした上で、慎重な制度設計が必要と思っています。
- 無償教育運動のわかりやすい解説書で本会の宣伝にも最適です。
- 教育無償化をめぐる過去、現在さらには国際的な動向がわかりやすく盛り込まれていて、早速新年度の授業でも使わせていただきたい材料を得ることができました。
- ライフワークとして取り組んで来た活動・研究の跡をまとめられたご本だなあと感じました。…ごくろう様でした。…一度は速読していますが、さらにもう一度、ゆっくりご本を読みたいと思っています。
- 教育という仕事にパーフェクトはありませんが、多くの人々が納得できる教育実践や教育環境の整備を期待したいものです。
- 京都の番組小学校など知らなかった事実を学ぶことができました。…発達の権利を論じる際に教育と発達の関係において議論を媒介するの必要を感じています。